

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 足立 円香

論 文 題 目

アルコール依存症患者の地域定着に向けた退院支援方法の検討
—精神科看護師の地域連携活動に焦点を当てて—

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	本田 育美
	名古屋大学講師	田中 晴佳
	名古屋大学教授	玉腰 浩司

論文審査の結果の要旨

アルコール依存症は、患者自身が病識を持ちにくく治療への動機付けが難しい疾患である。退院と同時に治療が途切れ再飲酒・再入院に至るケースが多く、入院治療後の患者の断酒率は20～30%程度と低い。アルコール依存症治療において、看護師は患者の総合的な評価を行い、退院後のケアの準備を整えるための地域連携に関わるなど、退院支援において重要な役割を担うと考えられる。しかし、病院の看護師によるアルコール依存症患者に対する退院支援および地域連携の具体的な活動は不明である。

そこで、これらを明らかにするために、本研究では、第1研究として精神看護に携わる8名の看護師にインタビュー調査を実施した。さらに、第2研究として国内の精神科病棟を有する病院の看護師を対象にアンケート調査を実施し、看護師116名(116病院)から有効な回答が得られた。

本研究の新知見と意義は要約すると以下の通りである。

【第1研究】

1. アルコール依存症患者の退院支援において、看護師が行う先駆的な地域連携の活動には2つの要素があり、看護師は、アルコール依存症患者の特性に沿った断酒の継続や生活の立て直しなどの「個別事例に対する支援」と、そのケアの基盤となる「地域連携体制の構築」を連動しながら実施していた。
2. 看護師によるアルコール依存症患者の退院支援実践において、「院内外の多職種と連携した支援」を充実させることが課題であった。

【第2研究】




3. 「病棟看護師の退院支援実践自己評価尺度」による退院支援の実践の程度と退院1年後の再入院率との間に負の関連が認められ、入院治療後のアルコール依存症患者の地域定着に向けた退院支援における看護師の役割の重要性が示唆された。
4. 統計学的な分析により、看護師の退院支援実践を促進しうる病院の組織構造の在り方として、「病院経営者・管理者は、我々の退院支援活動について理解している」、「退院支援には多職種が参加・協力している」、「クリニカルパスを用いるなど、退院までのスケジュールが計画されている」ことが抽出された。

以上の結果より、アルコール依存症患者の入院治療を行う病院では、患者の退院に向けた退院計画を立てること、また、その計画を多職種が連携して実施できるような組織体制づくりが必要であり、一連の組織構造がうまく機能していれば、看護師は有益な退院支援活動を実践することができると考えられた。

本研究の主たる内容は Japan Journal of Nursing Science (2021 JCR Impact factor : 1.691) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	足立 円香
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学講師	名古屋大学教授
	本田 育美		田中 晴佳	 玉腰 浩司 
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海外と日本における、アルコール依存症患者に対する看護の違いについて 2. アルコール依存症患者と他疾患患者の退院支援における看護師の役割の違いについて 3. 役職の違う対象者に対してインタビュー調査をした際、留意したことについて 4. アンケート調査の際、回収率を上げるために行ったことについて 5. 看護師の退院支援実践に対する病院単位での支援能力と看護師個人の能力の影響について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				